

日本年金機構の個人情報流出について

1. 事象の内容

日本年金機構において、職員の端末に対する外部からのウイルスメールによる不正アクセスにより、日本年金機構が保有している個人情報の一部が外部に流出したことが、5月28日に判明しました。現時点で流出していると考えられるのは、約125万件です。

流出した情報	件数
二情報（基礎年金番号、氏名）	約3.1万件
三情報（基礎年金番号、氏名、生年月日）	約116.7万件
四情報（基礎年金番号、氏名、生年月日、住所）	約5.2万件
合計	約125.0万件

なお、現在のところ、基幹システム（社会保険オンラインシステム）への不正アクセスは確認されていませんが、さらに精査中。

2. 事象の原因

電子メールのウイルスが入った添付ファイルを開封したことにより、不正アクセスが行われ、情報が流出したものと認められます。

3. 対処状況

- 不正アクセスが発見された時点で直ちにウイルスに感染したPCを隔離し、契約しているウイルス対策ソフト会社に解析を依頼するとともに、検知したウイルスについては除去を進めています。また、警察にも通報し、捜査を依頼しています。
- 更に、現在、外部への情報流出を防止するため、全拠点でインターネットへの接続を遮断しています。

4. 日本年金機構における今後の対応

- 今回の流出の対象となったお客様についてシステム上確認できる体制を確立し、該当するお客様から年金の手続きがあった際には、ご本人であることを確認した上で手続きを行います。
- 該当するお客様には、その旨を個別にお知らせし、お詫びをいたします。
- 該当するお客様には、基礎年金番号を変更させていただくことにより、そのための準備を早急に進めていきます。
- お客様に外部からの不審な連絡があった場合に対応させていただくための専用電話窓口（コールセンター）を日本年金機構に本日設置します。
- 今後、関係機関と協力し、更なる調査を進めるとともに、この度の事案を重く受け止め、情報セキュリティ対策の一層の強化に取り組んでまいります。また、原因調査、再発防止等のための委員会を設置します。